

懺悔なさしめ精信にして登るときは、恙なしといふ、絶頂纔に坦なる岩頭に、藏王權現の小祠あり、此所より四邊を望むに、懸崖幾千丈なるを量べからず、澗底朦朧として雲霧遮り、常に烈風あつて巔頭を衝故に健實の者といへども、岩頭に立事能ず、匍匐して社前に至り、拜し卒て復鎖に絶り下山す。

彦山
前國〔書言字考節用集二
乾坤〕彦山豊前田川郡、蓋蟠根
前、後筑前三州

〔西遊雜記二〕彦山は九州第一の高山にて、豊州筑前に跨るといへ共三所權現の御社諸堂、豊前の地にあれば、豊前の彦山と稱する也。至て大山故に、山の麓は筑後、中略、山の麓は筑後、地へもかゝるといふ也、○中略、扱峯より遠見すれば、周防長門の海面、筑前の浦々、肥後阿蘇山、四國路の山々迄も見ゆるといふ、平生にても、峯には雲霧閉て、晴天の日は稀也。予が登りし日も、頂には白雲満々て、遠見ならず、山の中途より上は、靈木生茂て矢もいらぬ深林、獸類も數多にて、目なれぬ諸鳥多しと衆徒の云ひぬ、僧雪舟歸朝の後、當山に六年住居せしといふ舊地あり、畫も残り、又自ら造りし庭あり、僻地ゆへに岩一つもとり直さずして、其儘に昔の形残りてあり、即一見せしに、今は植直し楓樹なども大木と成、自然石の石橋義哉として、巔も苦むし、古雅成事いはんかたなし、雪舟の氣象迄も思ひ察風情あり。

〔遊囊賸記十二〕彦山ハ、當國第一ノ高嶽ナリ、三伏ニ山坊ニ宿シテ、終夜冷然、數日ノ苦熱ヲ忘ル、明レバ主僧先達シテ、岩石ヲ攀テ高頂ニ登ル、眺望殊絶ナリ、拜禮畢テ谷々ヲ巡行シ、草萊ノ路ヲ分テ、求菩提山ヘカヽリ、中津ノ方へ赴ク。

九州記彦山ト申ハ、西國第一ノ大山ニテ、豊前、豐後筑前三ヶ國ニ跨ギ、山中坊數三千ニ餘レリ、彦山大權現、本地ハ西天竺ノ靈神タリ、人王十代崇神天皇ノ御宇ニアタリテ、天竺ヨリ五ノ劍ヲ東ヘ向テ擲玉ヒ、吾縁ノ有方ヘ留ルベシトチカヒ玉フ、一ハ紀伊國室郡ニ留リ、一ハ下野國日光山ニ留リ、一ハ出羽國羽黒ノ嶺ニ留リ、一ハ淡路國乙鶴羽ノ峯ニトマリ、一ハ豊前國彦